

■ 1 検討の背景と趣旨

小山市においては、全国的な少子化傾向と同じくして、全市的に児童生徒数が減少する一方で、特定の地域では宅地開発等により児童生徒数が増加するなど、学校規模の二極化が進んでいます。

特に、規模の小さな学校においては、切磋琢磨する機会の確保が難しいこと、規模の大きな学校においては、きめ細かな指導が難しいことなどの問題が指摘されており、教育条件や教育環境、学校運営の様々な面で地域間の格差が生じています。

また、学校規模の二極化は今後も進むことが予想さ

れ、将来を担う子どもたちの教育の機会均等と教育水準の向上などが課題となっていることから、全市的に学校の配置や規模を適正化する必要があると考えられます。

このため、少子化や教育的ニーズの多様化など社会的背景を踏まえ、本市における小中学校の現状と課題を把握するとともに、児童生徒のより良い教育環境づくりに向けて、学校適正配置等の基本となる方針や実現方策等についてとりまとめたものです。

■ 学校規模に関する課題

規模	主な課題
小規模校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単学級（1学年1学級）の場合、クラス替えがないことから、児童生徒間の評価や序列の固定化を防ぐことが課題となります。 ○ 人数が少ないため、多様な価値観や様々な表現方法にふれるなど、切磋琢磨する機会を増やし、幅広く考えることや、より深く議論することを身に付けること、また、学校行事やクラブ活動、部活動、児童会・生徒会活動などを活発に行えるようにすることが課題となります。
大規模校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人数が多いため、きめ細やかな指導を行うことや、児童生徒相互及び教師との関係を深める機会を増やすこと、学校行事や集会活動などを円滑に行うことなどが課題となります。 ○ 学級数が多いため、体育館、プール、特別教室などの利用に制約を生じさせないことが課題となります。

■ 学級数による学校規模の分類表 / () 内の数字は学級数 【平成25年5月現在】

	小規模校		適正規模校	大規模校
	全学年単学級	7～11学級		
小学校	6学級以下	7～11学級	12～18学級	19学級以上
	小山第二小(6)、大谷南小(6)、下生井小(6)、網戸小(6)、豊田南小(6)、豊田北小(6)、寒川小(6)、穂積小(6)、中小(6)、羽川西小(6)、萱橋小(6)、福良小(6)、梁小(6)、延島小(6)		小山第一小(12)、小山第三小(12)、小山城北小(14)、若木小(12)、間々田小(18)、乙女小(12)、間々田東小(18)	小山城南小(24)、旭小(25)、小山城東小(24)、大谷東小(26)、大谷北小(21)、羽川小(20)
中学校	8学級以下	9～18学級	19学級以上	
	豊田中(6)、美田中(6)、絹中(6)	小山中(13)、小山第二中(12)、大谷中(15)、間々田中(18)、乙女中(9)、桑中(16)	小山第三中(23)、小山城南中(22)	

■ 3 今後の進め方

平成26年度からは、本提言に基づき、各地域において説明会を開催し、地域の皆様のご意見を伺うとともに、アンケート調査を実施して皆様の意向を確認してまいります。

また、事業の速やかな進行のため、学校統合や学区

再編等の実現方策ごとに、必要に応じて自治会長、PTA役員等で構成する分科会を設置して、ご協力をいただきながら進めてまいります。

そして、地域の合意形成が図れたところから順次実施してまいります。

■ 2 具体的な実現方策

中学校区を基本単位として、学校統合や学区再編を提言します

- 小山城東小の適正規模化検討案**
 - ・当該学区のうち、東部第一土地区画整理地内の大字土塔地域を旭小学区に編入。
（この結果、土塔地域の児童が水戸線を横断せずに通学可能となるとともに、小山城東小が適正規模に近づく）
- 城南地区の適正規模化検討案**
 - ・東城南地区に旭小の分離校として新設する。
 - ・学区域は「国道50号線以南の東城南1～5丁目」及び「東城南東側の大字小山地区」と、大谷東小学区のうち「城東線の西側で、かつ小山南通り以北」を併せた区域。
（これにより、旭小が適正規模に近づくとともに、東城南地区の児童が50号線を横断せずに通学でき、交通事故の危険性が低減する）
- 大谷東小の適正規模化検討案**
 - ・現在の校地の西側を拡張し、校舎を増築することで教室数不足に対応する。
 - ・大谷東小学区のうち「城東線の西側で、かつ小山南通り以北」を東城南地区に建設する新設校の学区とする。
 - ・大字田間地区を大谷南小の学区に編入する。
（これにより、大谷東小の肥大化の緩和と大谷南小の児童数増加が図れる）
- 乙女中学区の適正規模化検討案**
 - ・乙女小、網戸小、下生井小を、校地を乙女小として統合する。
（この3校統合により小規模校の解消になるとともに、近接の乙女中学校との小中一貫教育の効果が向上）
- 豊田中学区の適正規模化検討案**
 - ・豊田南小、豊田北小を統合し、豊田中との小中一貫教育に適した位置に新設校として設置。
（統合により小規模校の解消になるとともに、近接に統合校を設置することで豊田中学校との小中一貫教育の効果が向上）
- 美田中学区の適正規模化検討案**
 - ・寒川小、穂積小、中小を統合し、美田中との小中一貫教育に適した位置に新設校として設置。
（この3校統合により小規模校の解消になると
- ・もに、近接に統合校を設置することで美田中学校との小中一貫教育の効果が向上）
- 桑中学区の適正規模化検討案**
 - ・羽川小、羽川西小、萱橋小は現状維持。
（統合した場合には大規模校である羽川小が更に大規模となることから現状維持）
- 絹中学区の適正規模化検討案**
 - ・福良小、梁小、延島小を、校地を福良小として統合する。
（この3校統合により小規模校の解消になるとともに、近接の絹中学校との小中一貫教育の効果が向上）
- 桑中学区及び絹中学区の学区再編検討案**
 - ・萱橋小を桑中学区から絹中学区に変更する可能性を検討する。
（絹中が近い将来学年1クラスとなる見込みから萱橋小の絹中学区編入の可能性を検討する）
- 思川西部土地区画整理事業区域の学区検討案**
 - ・思川西部土地区画整理事業区域の学区は、地元意向及び通学環境等を考慮して学区を定めることが望ましい。
（土地区画整理事業完成後は市街化区域となること、通学距離、通学路の安全性等から、小山第一小学区が望ましい）
- 羽川小・桑中及び若木小・小山中の学区再編検討案**
 - ・喜沢南部自治会を主とする大字喜沢の南部を羽川小・桑中学区から若木小・小山中学区に編入。
（通学距離が近いこと等から喜沢南部自治会区域からは7割を超える児童生徒が若木小・小山中に通学している）
- 間々田小、小山第三小、小山城南小の学区再編検討案**
 - ・大字栗宮の一部（JR西側で小山環状線北側）を間々田小学区から小山第三小学区に編入。
 - ・大字栗宮の一部（JR東側で小山環状線北側）を間々田小学区から小山城南小学区に編入。
（これにより、大字栗宮のうち小山環状線北側の区域は、間々田小への1時間近くかかる遠距離通学が解消できる）